

島根原子力発電所第2号機 指摘事項に対する回答整理表(管の耐震性に関する計算書)

No.	指摘日	資料の該当箇所				コメント内容	回答日	回答	資料等への反映箇所	備考
		ヒアリング資料番号	図書種別、目録番号	図書名称	該当頁					
1	2022/1/24	添2-004-09	耐震(計算書)(VI-2-4-3-1-3)	VI-2-4-3-1-3 管の耐震性についての計算書(燃料プール冷却系)	P.5	鳥瞰図における点線で示されている部位について、どういう意味か説明すること。また、配管部の先端の構造について、キャップ等が付属しているのであれば、鳥瞰図に示した上で説明すること。	2022/10/25	鳥瞰図においては、主配管を実線、主配管ではないものを点線で示しています。また、鳥瞰図の必要な箇所にキャップを追加しました。	NS2-添2-004-09改01「VI-2-4-3-1-3 管の耐震性についての計算書(燃料プール冷却系)」P.5,6	
2	2022/1/24	添2-005-02	耐震(計算書)(VI-2-5-2-1-1)	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	P.16	管番号 13 及び 14 について、同一温度であるにもかかわらず縦弾性係数が異なっている理由について説明すること。	今回回答	縦弾性係数は、最高使用温度ではなく運転温度にて算出しており、最高使用温度が同じであっても運転温度が異なれば縦弾性係数の値が異なる場合があります。	—	

島根原子力発電所第2号機 工認記載適正化箇所(管の耐震性に関する計算書)

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
No.1～108については、NS2-他-234で整理済みのため省略。						
109	NS2-添2-001-14改07	VI-2-1-14 機器・配管系の計算書作成の方法	P.7	<p>記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) a. レストレイント: 支持構造物の剛性を考慮したばね*にて拘束方向の並進方向を固定, 回転方向を自由として扱う。 b. スナップバ: 支持構造物の剛性を考慮したばねにて拘束方向の並進方向を固定, 回転方向を自由として扱う。 c. アンカ: 支持構造物の剛性を考慮したばね*にて並進方向及び回転方向を固定として扱う。 d. ガイド: 支持構造物の剛性を考慮したばね*にて拘束方向の並進方向及び回転方向を固定として扱う。 (新) a. レストレイント: 支持構造物の剛性を考慮したばね*にて支持する並進方向を拘束, 回転方向を自由として扱う。 b. スナップバ: 支持構造物の剛性を考慮したばねにて支持する並進方向を拘束, 回転方向を自由として扱う。 c. アンカ: 支持構造物の剛性を考慮したばね*にて並進方向及び回転方向を拘束として扱う。 d. ガイド: 支持構造物の剛性を考慮したばね*にて支持する並進方向及び回転方向を拘束として扱う。</p>	2023/2/7	
110	NS2-添2-001-14改07	VI-2-1-14 機器・配管系の計算書作成の方法	P.13,21	<p>記載を適正化しました。 (旧)策定 (新)設定</p>	2023/2/7	
111	NS2-添2-001-14改07	VI-2-1-14 機器・配管系の計算書作成の方法	P.17	<p>記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管, 又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管, 又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管</p>	2023/2/7	
112	NS2-添2-001-14改07	VI-2-1-14 機器・配管系の計算書作成の方法	P.18	<p>記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管, 又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管, 又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管</p>	2023/2/7	
113	NS2-添2-001-14改07	VI-2-1-14 機器・配管系の計算書作成の方法	P.23,27	<p>記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)重大事故等クラス2管 (新)重大事故等クラス2管(原子炉冷却材圧力バウンダリ範囲)</p>	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
114	NS2-添2-001-14改07	VI-2-1-14 機器・配管系の計算書作成の方法	P.24,28	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) 重大事故等クラス2管 USs^* 注記*1:一次+二次応力が $2 \cdot S_y$ 以下の場合、「—」と記載する。 (新) 重大事故等クラス2管 $_{-1}$ USs^*_{-2} 注記*1:本表は原子炉冷却材圧力バウンダリを除く範囲に適用する。なお、同一計算書にて原子炉冷却材圧力バウンダリ範囲の重大事故等クラス2管の結果を示す場合は、原子炉冷却材圧力バウンダリを除く範囲の結果であることを記載する。 *2:一次+二次応力が $2 \cdot S_y$ 以下の場合、「—」と記載する。	2023/2/7	
115	NS2-添2-001-14改07	VI-2-1-14 機器・配管系の計算書作成の方法	P.26	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 *2:機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 *2:水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 *4:水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
116	NS2-添2-001-14改07	VI-2-1-14 機器・配管系の計算書作成の方法	P.26	動作機能確認済加速度及び構造強度評価結果について、「詳細評価」で実施することが分かるよう表を適正化しました。	2023/2/7	
117	NS2-添2-001-14改07	VI-2-1-14 機器・配管系の計算書作成の方法	P.26	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧)*2:機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合「—」と記載する。 (新)*2:水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 *3:詳細評価対象外の場合は「—」と記載する。	2023/2/7	
118	NS2-添2-001-14改07	VI-2-1-14 機器・配管系の計算書作成の方法	P.26	$\alpha(S_d)$, $\beta(S_d)$ を削除しました。	2023/2/7	
119	NS2-添2-004-09改02	VI-2-4-3-1-3 管の耐震性についての計算書(燃料プール冷却系)	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
120	NS2-添2-004-09改02	VI-2-4-3-1-3 管の耐震性についての計算書(燃料プール冷却系)	P.4	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
121	NS2-添2-004-09改02	VI-2-4-3-1-3 管の耐震性についての計算書(燃料プール冷却系)	P.26	記載を適正化しました。 (旧)策定 (新)設定	2023/2/7	
122	NS2-添2-004-09改02	VI-2-4-3-1-3 管の耐震性についての計算書(燃料プール冷却系)	P.42	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 詳細評価 ^{*2} *2:機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 詳細評価 ^{*2,3} *2:水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 *4:水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
123	NS2-添2-004-09改02	VI-2-4-3-1-3 管の耐震性についての計算書(燃料プール冷却系)	P.42	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧)*2:機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「—」と記載する。 (新)*2:水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 *3:詳細評価対象外の場合は「—」と記載する。	2023/2/7	
124	NS2-添2-004-09改02	VI-2-4-3-1-3 管の耐震性についての計算書(燃料プール冷却系)	P.42	α (Sd), β (Sd)を削除しました。	2023/2/7	
125	NS2-添2-004-10改01	VI-2-4-3-2-1 管の耐震性についての計算書(燃料プールのスプレイ系)	表紙	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)VI-2-4-3-2-1 管の耐震性についての計算書 (新)VI-2-4-3-2-1 管の耐震性についての計算書(燃料プールのスプレイ系)	2023/2/7	
126	NS2-添2-004-10改01	VI-2-4-3-2-1 管の耐震性についての計算書(燃料プールのスプレイ系)	目次	ページ番号を適正化しました。	2023/2/7	
127	NS2-添2-004-10改01	VI-2-4-3-2-1 管の耐震性についての計算書(燃料プールのスプレイ系)	P.1	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)本計算書は、VI-2-1-14「添付資料-6 管の耐震性についての計算書作成の基本方針」(以下「基本方針」という。))に基づき、管、支持構造物及び弁が設計用地震力に対して十分な構造強度を有し、動的機能を維持できることを説明するものである。 (新)本計算書は、VI-2-1-14「機器・配管系の計算書作成の方法 添付資料-6 管の耐震性についての計算書作成の基本方針」(以下「基本方針」という。))に基づき、燃料プールのスプレイ系の管、支持構造物及び弁が設計用地震力に対して十分な構造強度を有し、動的機能を維持できることを説明するものである。	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
128	NS2-添2-004-10改01	VI-2-4-3-2-1 管の耐震性についての計算書(燃料プールのスプレイ系)	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管,又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管,又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
129	NS2-添2-004-10改01	VI-2-4-3-2-1 管の耐震性についての計算書(燃料プールのスプレイ系)	P.4	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管,又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管,又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
130	NS2-添2-004-10改01	VI-2-4-3-2-1 管の耐震性についての計算書(燃料プールのスプレイ系)	P.4	鳥瞰図記号凡例のレストレイント及びスナツパについて,斜め拘束の場合を追加し,記載を適正化しました。	2023/2/7	
131	NS2-添2-004-10改01	VI-2-4-3-2-1 管の耐震性についての計算書(燃料プールのスプレイ系)	P.11,12	設計条件について,許容応力状態別の記載とし,表を2つに分割しました。	2023/2/7	
132	NS2-添2-004-10改01	VI-2-4-3-2-1 管の耐震性についての計算書(燃料プールのスプレイ系)	P.17	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答スペクトルを下表に示す。なお,設計用床応答スペクトルは,VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき策定したものをを用いる。また,減衰定数はVI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。 (新)本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答スペクトル及び等価繰返し回数を下表に示す。 なお,設計用床応答スペクトルは,VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定したものをを用いる。減衰定数は,VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。等価繰返し回数は,VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に基づき設定したものをを用いる。	2023/2/7	
133	NS2-添2-004-10改01	VI-2-4-3-2-1 管の耐震性についての計算書(燃料プールのスプレイ系)	P.17	表に等価繰返し回数の欄を追加しました。	2023/2/7	
134	NS2-添2-004-10改01	VI-2-4-3-2-1 管の耐震性についての計算書(燃料プールのスプレイ系)	P.18	注記を追加及び適正化しました。(下線部参照) (旧) 注記*1:固有周期が0.050s以上のモードを示す。0.020s以上0.050s未満のモードに対しては,最大応答加速度又はこれを上回る震度を適用する。なお,1次固有周期が0.050s未満である場合は,1次モードのみを示す。 *2:設計用床応答スペクトルⅡ(弾性設計用地震動Sd)又はこれを上回る設計用床応答スペクトルより得られる震度 *3:設計用震度Ⅱ(基準地震動Ss)又はこれを上回る設計震度 (新) 注記*1:固有周期が0.050s以上のモードを示す。0.020s以上0.050s未満のモードに対しては,最大応答加速度又はこれを上回る震度を適用する。なお,1次固有周期が0.050s未満である場合は,1次モードのみを示す。 *2:設計用床応答スペクトルⅡ(弾性設計用地震動Sd)により得られる震度 *3:設計用震度Ⅱ(基準地震動Ss) *4:最大応答加速度を1.2倍した震度	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
135	NS2-添2-004-10改01	VI-2-4-3-2-1 管の耐震性についての計算書(燃料プールのスプレイ系)	P.19	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)注記*: 刺激係数は、モード質量を正規化し、固有ベクトルと質量マトリックスの積から算出した値を示す。 (新)注記*: モード質量を正規化するモードベクトルを用いる。	2023/2/7	
136	NS2-添2-004-10改01	VI-2-4-3-2-1 管の耐震性についての計算書(燃料プールのスプレイ系)	P.24	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)疲労累積係数 (新)疲労累積係数 <u>USs</u>	2023/2/7	
137	NS2-添2-004-10改01	VI-2-4-3-2-1 管の耐震性についての計算書(燃料プールのスプレイ系)	P.24	IVASを追加し、VASの記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)一次応力(0.9・Su) 一次二次応力(2・Sy) (新)一次応力 $S_{prn}(0.9 \cdot Su)$ 一次二次応力 $S_n(2 \cdot Sy)$	2023/2/7	
138	NS2-添2-004-10改01	VI-2-4-3-2-1 管の耐震性についての計算書(燃料プールのスプレイ系)	P.25	許容荷重を一次評価と二次評価に分け、それぞれに注記を追記しました。 <追記> 注記*1: あらかじめ設定した設計上の基準値を許容荷重として実施する評価 *2: 計算荷重があらかじめ設定した設計上の基準値を超過した箇所に対して、JEAG4601に定める許容限界を満足する範囲内で新たに設定した設計上の基準値を許容荷重として実施する評価。なお、一次評価を満足する場合は「―」と記載する。	2023/2/7	
139	NS2-添2-004-10改01	VI-2-4-3-2-1 管の耐震性についての計算書(燃料プールのスプレイ系)	P.26	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 *2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 *2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 *4: 水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
140	NS2-添2-004-10改01	VI-2-4-3-2-1 管の耐震性についての計算書(燃料プールのスプレイ系)	P.26	動作機能確認済加速度及び構造強度評価結果について、「詳細評価」で実施することが分かるよう表を適正化しました。	2023/2/7	
141	NS2-添2-004-10改01	VI-2-4-3-2-1 管の耐震性についての計算書(燃料プールのスプレイ系)	P.26	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧)*2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「―」と記載する。 (新)*2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 *3: 詳細評価対象外の場合は「―」と記載する。	2023/2/7	
142	NS2-添2-004-10改01	VI-2-4-3-2-1 管の耐震性についての計算書(燃料プールのスプレイ系)	P.26	$\alpha(S_d)$ 、 $\beta(S_d)$ を削除しました。	2023/2/7	
143	NS2-添2-004-10改01	VI-2-4-3-2-1 管の耐震性についての計算書(燃料プールのスプレイ系)	P.27	許容応力状態IVASの評価結果を追加しました。	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
144	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	表紙	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書 (新)VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	2023/2/7	
145	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	目次	ページ番号を適正化しました。	2023/2/7	
146	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	P.1	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)本計算書は、VI-2-1-14「添付資料-6 管の耐震性についての計算書作成の基本方針」(以下「基本方針」という。)に基づき、管、支持構造物及び弁が設計用地震力に対して十分な構造強度を有し、動的機能を維持できることを説明するものである。 (新)本計算書は、VI-2-1-14「機器・配管系の計算書作成の方法 添付資料-6 管の耐震性についての計算書作成の基本方針」(以下「基本方針」という。)に基づき、原子炉再循環系の管、支持構造物及び弁が設計用地震力に対して十分な構造強度を有し、動的機能を維持できることを説明するものである。	2023/2/7	
147	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
148	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	P.3	概略系統図に残留熱除去系との兼用範囲を追加し、注記を適正化しました。(下線部参照) (旧)注記*: 本範囲は残留熱除去系の申請範囲であるが、解析モデル上、本系統に含める。 (新)注記*1: 残留熱除去系の申請範囲であるが、計算結果は本系統に含めて示す。 *2: 残留熱除去系との兼用範囲である。	2023/2/7	
149	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	P.4	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
150	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	P.4	鳥瞰図記号凡例のレストレイント及びスナップについて、斜め拘束の場合を追加し、記載を適正化しました。	2023/2/7	
151	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	P.5,7,11	レストレイントを実線から破線に変更しました。	2023/2/7	
152	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	P.16~20	設計条件について、許容応力状態別の記載とし、表を2つに分割しました。	2023/2/7	
153	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	P.16~20	許容応力状態IVASとVASを明確に区分したことに伴い、管番号に対応する評価点を変更しました。 (旧)7:59~60,62~66, 8:60~62,66~67 (新)7:59~60, 8:60~61, 9:61~62,66~67, 10:62~66	2023/2/7	
154	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	P.28	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答スペクトルを下表に示す。 なお、設計用床応答スペクトルは、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき策定したものを示す。 また、減衰定数はVI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。 (新)本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答スペクトル及び等価繰返し回数を下表に示す。 なお、設計用床応答スペクトルは、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定したものを示す。 減衰定数は、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。等価繰返し回数は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に基づき設定したものを示す。	2023/2/7	
155	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	P.28	表に等価繰返し回数の欄を追加しました。	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
156	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	P.29	<p>注記を追加及び適正化しました。(下線部参照)また、追加に伴い注記の位置を修正しました。</p> <p>(旧)</p> <p>注記*1: 固有周期が0.050s以上のモードを示す。0.020s以上0.050s未満のモードに対しては、最大応答加速度又はこれを上回る震度を適用する。なお、1次固有周期が0.050s未満である場合は、1次モードのみを示す。</p> <p>*2: 設計用床応答スペクトル I (弾性設計用地震動Sd)又はこれを上回る設計用床応答スペクトルより得られる震度</p> <p>*3: 設計用床応答スペクトル I (基準地震動Ss)又はこれを上回る設計用床応答スペクトルより得られる震度</p> <p>*4: 設計用震度 I (弾性設計用地震動Sd)又はこれを上回る設計震度及び設計用震度 I (基準地震動Ss)又はこれを上回る震度</p> <p>*5: 3.6・CI及び1.2・CVより定めた震度</p> <p>(新)</p> <p>注記*1: 固有周期が0.050s以上のモードを示す。0.020s以上0.050s未満のモードに対しては、最大応答加速度又はこれを上回る震度を適用する。なお、1次固有周期が0.050s未満である場合は、1次モードのみを示す。</p> <p>*2: 設計用床応答スペクトル I (弾性設計用地震動Sd)により得られる震度</p> <p>*3: 設計用床応答スペクトル I (基準地震動Ss)により得られる震度</p> <p>*4: 設計用震度 I (弾性設計用地震動Sd)及び設計用震度 I (基準地震動Ss)</p> <p>*5: 最大応答加速度を1.2倍した震度</p> <p>*6: 3.6・CI及び1.2・CVより定めた震度</p>	2023/2/7	
157	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	P.30	<p>記載を適正化しました。(下線部参照)</p> <p>(旧)注記*: 刺激係数は、モード質量を正規化し、固有ベクトルと質量マトリックスの積から算出した値を示す。</p> <p>(新)注記*: モード質量を正規化するモードベクトルを用いる。</p>	2023/2/7	
158	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	P.35,36,39~42	表をクラス1管と重大事故等クラス2管(原子炉冷却材圧力バウンダリ範囲)に分割しました。	2023/2/7	
159	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	P.35	<p>記載を適正化しました。(下線部参照)</p> <p>(旧) IVAS</p> <p><u>VAS*</u></p> <p>注記*: 重大事故等クラス2管であってクラス1管の場合は、許容応力状態IVASとVASを包絡した結果を記載する。</p> <p>(新) IVAS</p>	2023/2/7	
160	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	P.35	<p>記載を適正化しました。(下線部参照)</p> <p>(旧)</p> <p>膜+曲げ(2.25・Sm)</p> <p>ねじり(0.55・Sm)</p> <p>ねじり+曲げ(1.8・Sm)</p> <p>一次+二次応力(3・Sm)</p> <p>疲労累積係数</p> <p>疲労累積係数</p> <p>(新)</p> <p>膜+曲げ <u>S_{pr}m</u>(2.25・Sm)</p> <p>ねじり <u>S_t</u>(0.55・Sm)</p> <p>ねじり+曲げ <u>S_t+S_b</u>(1.8・Sm)</p> <p>一次+二次応力 <u>S_n</u>(3・Sm)</p> <p>疲労累積係数 <u>U+U_{Sd}</u></p> <p>疲労累積係数 <u>U+U_{Ss}</u></p>	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
161	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	P.37	許容荷重を一次評価と二次評価に分け、それぞれに注記を追記しました。 <追記> 注記*1:あらかじめ設定した設計上の基準値を許容荷重として実施する評価 *2:計算荷重があらかじめ設定した設計上の基準値を超過した箇所に対して、JEA4601に定める許容限界を満足する範囲内で新たに設定した設計上の基準値を許容荷重として実施する評価。なお、一次評価を満足する場合は「—」と記載する。	2023/2/7	
162	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	P.38	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 *2:機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 *2:水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 *4:水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
163	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	P.38	動作機能確認済加速度及び構造強度評価結果について、「詳細評価」で実施することが分かるよう表を適正化しました。	2023/2/7	
164	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	P.38	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧)*2:機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「—」と記載する。 (新)*2:水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 *3:詳細評価対象外の場合は「—」と記載する。	2023/2/7	
165	NS2-添2-005-02改01	VI-2-5-2-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉再循環系)	P.38	α (Sd), β (Sd)を削除しました。	2023/2/7	
166	NS2-添2-005-05	VI-2-5-3-2-1 管の耐震性についての計算書(給水系)	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
167	NS2-添2-005-05	VI-2-5-3-2-1 管の耐震性についての計算書(給水系)	P.4	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
168	NS2-添2-005-05	VI-2-5-3-2-1 管の耐震性についての計算書(給水系)	P.15,18	鳥瞰図中に建物名称を追加しました。	2023/2/7	
169	NS2-添2-005-05	VI-2-5-3-2-1 管の耐震性についての計算書(給水系)	P.48	記載を適正化しました。 (旧)策定 (新)設定	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
170	NS2-添2-005-05	VI-2-5-3-2-1 管の耐震性についての計算書(給水系)	P.62,69,70,73	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)重大事故等クラス2管 (新)重大事故等クラス2管(原子炉冷却材圧力バウンダリ範囲)	2023/2/7	
171	NS2-添2-005-05	VI-2-5-3-2-1 管の耐震性についての計算書(給水系)	P.64,74	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)重大事故等クラス2管 (新)重大事故等クラス2管(原子炉冷却材圧力バウンダリを除く範囲)	2023/2/7	
172	NS2-添2-005-05	VI-2-5-3-2-1 管の耐震性についての計算書(給水系)	P.66	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2:機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2:水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 4:水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
173	NS2-添2-005-05	VI-2-5-3-2-1 管の耐震性についての計算書(給水系)	P.66	動作機能確認済加速度及び構造強度評価結果について、「詳細評価」で実施することが分かるよう表を適正化しました。	2023/2/7	
174	NS2-添2-005-05	VI-2-5-3-2-1 管の耐震性についての計算書(給水系)	P.66	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧)* 2:機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「—」と記載する。 (新)* 2:水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 3:詳細評価対象外の場合は「—」と記載する。	2023/2/7	
175	NS2-添2-005-05	VI-2-5-3-2-1 管の耐震性についての計算書(給水系)	P.66	α (Sd), β (Sd)を削除しました。	2023/2/7	
176	NS2-添2-005-15	VI-2-5-5-1-3 管の耐震性についての計算書(高圧炉心スプレイ系)	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
177	NS2-添2-005-15	VI-2-5-5-1-3 管の耐震性についての計算書(高圧炉心スプレイ系)	P.4	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
178	NS2-添2-005-15	VI-2-5-5-1-3 管の耐震性についての計算書(高圧炉心スプレイ系)	P.27	記載を適正化しました。 (旧)策定 (新)設定	2023/2/7	
179	NS2-添2-005-15	VI-2-5-5-1-3 管の耐震性についての計算書(高圧炉心スプレイ系)	P.40,47,48	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)重大事故等クラス2管 (新)重大事故等クラス2管(原子炉冷却材圧力バウンダリ範囲)	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
180	NS2-添2-005-15	VI-2-5-5-1-3 管の耐震性についての計算書(高压炉心スプレイ系)	P.42,51,52	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)重大事故等クラス2管 (新)重大事故等クラス2管(原子炉冷却材圧力バウンダリを除く範囲)	2023/2/7	
181	NS2-添2-005-15	VI-2-5-5-1-3 管の耐震性についての計算書(高压炉心スプレイ系)	P.44	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 4: 水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
182	NS2-添2-005-15	VI-2-5-5-1-3 管の耐震性についての計算書(高压炉心スプレイ系)	P.44	動作機能確認済加速度及び構造強度評価結果について、「詳細評価」で実施することが分かるよう表を適正化しました。	2023/2/7	
183	NS2-添2-005-15	VI-2-5-5-1-3 管の耐震性についての計算書(高压炉心スプレイ系)	P.44	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧)* 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「—」と記載する。 (新)* 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 3: 詳細評価対象外の場合は「—」と記載する。	2023/2/7	
184	NS2-添2-005-15	VI-2-5-5-1-3 管の耐震性についての計算書(高压炉心スプレイ系)	P.44	α (Sd), β (Sd)を削除しました。	2023/2/7	
185	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低压炉心スプレイ系)	目次	ページ番号を適正化しました。	2023/2/7	
186	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低压炉心スプレイ系)	P.1	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)VI-2-1-14「機器・配管系の計算書作成の方法 添付資料6 管の耐震性についての計算書作成の基本方針」 (新)VI-2-1-14「機器・配管系の計算書作成の方法 添付資料_6 管の耐震性についての計算書作成の基本方針」	2023/2/7	
187	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低压炉心スプレイ系)	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
188	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低压炉心スプレイ系)	P.3	LPCS=PD-11について、範囲指定の矢印を右側にも追加しました。	2023/2/7	
189	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低压炉心スプレイ系)	P.4	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
190	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低圧炉心スプレイ系)	P.4	鳥瞰図記号凡例のレストレイント及びスナップについて、斜め拘束の場合を追加し、記載を適正化しました。	2023/2/7	
191	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低圧炉心スプレイ系)	P.5,6	実線範囲の一部を破線に変更しました。	2023/2/7	
192	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低圧炉心スプレイ系)	P.17	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) $V L(L)+S d^{*7\sim*9}$ $V L(LL)+S s^{*10}$ *6:原子炉冷却材圧力バウンダリのみにおいて考慮する。 *7:原子炉冷却材圧力バウンダリ及び原子炉格納容器バウンダリにおいて考慮する。 (新) $V L(L)+S d^{*6,*7,*8,*9}$ $V L(LL)+S s^{*6,*7,*10}$ *6:原子炉冷却材圧力バウンダリにおいて考慮する。 *7:原子炉格納容器バウンダリにおいて考慮する。	2023/2/7	
193	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低圧炉心スプレイ系)	P.18,19,24,25,30,31	設計条件について、許容応力状態別の記載とし、表を2つに分割しました。	2023/2/7	
194	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低圧炉心スプレイ系)	P.36	許容応力状態を区分したことに伴い、追加した最高使用温度の許容応力を追加しました。	2023/2/7	
195	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低圧炉心スプレイ系)	P.37	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答スペクトルを下表に示す。 なお、設計用床応答スペクトルは、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき策定したものを示す。 また、減衰定数はVI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。 (新)本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答スペクトル及び等価繰返し回数を下表に示す。 なお、設計用床応答スペクトルは、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定したものを示す。 減衰定数は、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。等価繰返し回数は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に基づき設定したものを示す。	2023/2/7	
196	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低圧炉心スプレイ系)	P.38,44,48	注記を追加及び適正化しました。(下線部参照)また、追加に伴い注記の位置を修正しました。 (旧) 注記*1:固有周期が0.050s以上のモードを示す。0.020s以上0.050s未満のモードに対しては、最大応答加速度又はこれを上回る震度を適用する。なお、1次固有周期が0.050s未満である場合は、1次モードのみを示す。 *2:設計用床応答スペクトル I (弾性設計用地震動Sd)より得られる震度 *3:設計用床応答スペクトル I (基準地震動Ss)より得られる震度 *4:設計用震度 I (弾性設計用地震動Sd)及び設計用震度 I (基準地震動Ss) *5:3.6・CI及び1.2・CVより定めた震度 (新) 注記*1:固有周期が0.050s以上のモードを示す。0.020s以上0.050s未満のモードに対しては、最大応答加速度又はこれを上回る震度を適用する。なお、1次固有周期が0.050s未満である場合は、1次モードのみを示す。 *2:設計用床応答スペクトル I (弾性設計用地震動Sd)により得られる震度 *3:設計用床応答スペクトル I (基準地震動Ss)により得られる震度 *4:設計用震度 I (弾性設計用地震動Sd)及び設計用震度 I (基準地震動Ss) *5:最大応答加速度を1.2倍した震度 *6:3.6・CI及び1.2・CVより定めた震度	2023/2/7	
197	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低圧炉心スプレイ系)	P.39,45,49	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)注記*:刺激係数は、モード質量を正規化し、固有ベクトルと質量マトリックスの積から算出した値を示す。 (新)注記*:モード質量を正規化するモードベクトルを用いる。	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
198	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低圧炉心スプレイ系)	P.54,55,61~63	表をクラス1管と重大事故等クラス2管(原子炉冷却材圧力バウンダリ範囲)に分割しました。	2023/2/7	
199	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低圧炉心スプレイ系)	P.54	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) 膜+曲げ(2.25・Sm) ねじり(0.55・Sm) ねじり+曲げ(1.8・Sm) 一次+二次応力(3・Sm) 疲労累積係数 疲労累積係数 (新) 膜+曲げ $S_{prm}(2.25 \cdot Sm)$ ねじり $S_t(0.55 \cdot Sm)$ ねじり+曲げ $S_t + S_b(1.8 \cdot Sm)$ 一次+二次応力 $S_n(3 \cdot Sm)$ 疲労累積係数 $U + U_{sd}$ 疲労累積係数 $U + U_{ss}$	2023/2/7	
200	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低圧炉心スプレイ系)	P.56,57,64~67	表をクラス2以下の管と重大事故等クラス2管(原子炉冷却材圧力バウンダリを除く範囲)に分割しました。	2023/2/7	
201	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低圧炉心スプレイ系)	P.56	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)一次応力 (S_y^*) 一次+二次応力 ($2 \cdot S_y$) 一次応力 ($0.9 \cdot S_u$) 一次+二次応力 ($2 \cdot S_y$) (新)一次応力 $S_{prm}(S_y^*)$ 一次+二次応力 $S_n(2 \cdot S_y)$ 一次応力 $S_{prm}(0.9 \cdot S_u)$ 一次+二次応力 $S_n(2 \cdot S_y)$	2023/2/7	
202	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低圧炉心スプレイ系)	P.56	最高使用温度の変更に伴い、許容応力を適正化しました。	2023/2/7	
203	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低圧炉心スプレイ系)	P.59	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 4: 水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
204	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低圧炉心スプレイ系)	P.59	動作機能確認済加速度及び構造強度評価結果について、「詳細評価」で実施することが分かるよう表を適正化しました。	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
205	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低圧炉心スプレイ系)	P.59	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧)*2:機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「—」と記載する。 (新)*2:水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 *3:詳細評価対象外の場合は「—」と記載する。	2023/2/7	
206	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低圧炉心スプレイ系)	P.59	要求機能を適正化しました。 (旧) β (Sd) (新) β (Ss)	2023/2/7	
207	NS2-添2-005-21	VI-2-5-5-2-3 管の耐震性についての計算書(低圧炉心スプレイ系)	P.59	α (Sd), β (Sd)を削除しました。	2023/2/7	
208	NS2-添2-005-26改01	VI-2-5-5-3-2 管の耐震性についての計算書(高圧原子炉代替注水系)	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
209	NS2-添2-005-26改01	VI-2-5-5-3-2 管の耐震性についての計算書(高圧原子炉代替注水系)	P.4	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
210	NS2-添2-005-26改01	VI-2-5-5-3-2 管の耐震性についての計算書(高圧原子炉代替注水系)	P.23	記載を適正化しました。 (旧)策定 (新)設定	2023/2/7	
211	NS2-添2-005-26改01	VI-2-5-5-3-2 管の耐震性についての計算書(高圧原子炉代替注水系)	P.36	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 *2:機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 *2:水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 *4:水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
212	NS2-添2-005-26改01	VI-2-5-5-3-2 管の耐震性についての計算書(高圧原子炉代替注水系)	P.36	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧)*2:機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「—」と記載する。 (新)*2:水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 *3:詳細評価対象外の場合は「—」と記載する。	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
213	NS2-添2-005-26改01	VI-2-5-5-3-2 管の耐震性についての計算書(高圧原子炉代替注水系)	P.36	α (Sd), β (Sd)を削除しました。	2023/2/7	
214	NS2-添2-005-46	VI-2-5-7-3-1 管の耐震性についての計算書(原子炉補機代替冷却系)	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管, 又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管, 又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
215	NS2-添2-005-46	VI-2-5-7-3-1 管の耐震性についての計算書(原子炉補機代替冷却系)	P.3~6	概略系統図について, A系, B系をまとめるため, ページ順を変更しました。また, 流れ方向の誤記を修正しました。	2023/2/7	
216	NS2-添2-005-46	VI-2-5-7-3-1 管の耐震性についての計算書(原子炉補機代替冷却系)	P.7	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管, 又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管, 又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
217	NS2-添2-005-46	VI-2-5-7-3-1 管の耐震性についての計算書(原子炉補機代替冷却系)	P.21	記載を適正化しました。 (旧)策定 (新)設定	2023/2/7	
218	NS2-添2-005-46	VI-2-5-7-3-1 管の耐震性についての計算書(原子炉補機代替冷却系)	P.22	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) * 2: 設計用床応答スペクトルⅡ(基準地震動Ss)より得られる震度 (新) * 2: 設計用床応答スペクトルⅡ(基準地震動Ss)により得られる震度	2023/2/7	
219	NS2-添2-005-46	VI-2-5-7-3-1 管の耐震性についての計算書(原子炉補機代替冷却系)	P.29	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し, 機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し, 水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 4: 水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり, 詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
220	NS2-添2-005-46	VI-2-5-7-3-1 管の耐震性についての計算書(原子炉補機代替冷却系)	P.29	動作機能確認済加速度及び構造強度評価結果について, 「詳細評価」で実施することが分かるよう表を適正化しました。	2023/2/7	
221	NS2-添2-005-46	VI-2-5-7-3-1 管の耐震性についての計算書(原子炉補機代替冷却系)	P.29	合成の欄を追加したことに伴い, 注記を分割しました。(下線部参照) (旧) * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し, 機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお, 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「—」と記載する。 (新) * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し, 水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 3: 詳細評価対象外の場合は「—」と記載する。	2023/2/7	
222	NS2-添2-005-46	VI-2-5-7-3-1 管の耐震性についての計算書(原子炉補機代替冷却系)	P.29	α (Sd), β (Sd)を削除しました。	2023/2/7	
223	NS2-添2-005-47改01	VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉浄化系)	表紙	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書 (新) VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書 (原子炉浄化系)	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
224	NS2-添2-005-47改01	VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉浄化系)	目次	ページ番号を適正化しました。	2023/2/7	
225	NS2-添2-005-47改01	VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉浄化系)	P.1	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) 本計算書は、VI-2-1-14「添付資料-6 管の耐震性についての計算書作成の基本方針」(以下「基本方針」という。)に基づき、管、支持構造物及び弁が設計用地震力に対して十分な構造強度を有し、動的機能を維持できることを説明するものである。 (新) 本計算書は、VI-2-1-14「機器・配管系の計算書作成の方法 添付資料-6 管の耐震性についての計算書作成の基本方針」(以下「基本方針」という。)に基づき、 <u>原子炉浄化系の管</u> 、支持構造物及び弁が設計用地震力に対して十分な構造強度を有し、動的機能を維持できることを説明するものである。	2023/2/7	
226	NS2-添2-005-47改01	VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉浄化系)	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) 工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新) 工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち <u>本系統の管</u> であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
227	NS2-添2-005-47改01	VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉浄化系)	P.3	概略系統図に高圧原子炉代替注水系及び原子炉隔離時冷却系との兼用範囲を明記しました。	2023/2/7	
228	NS2-添2-005-47改01	VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉浄化系)	P.4	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) 工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新) 工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち <u>本系統の管</u> であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
229	NS2-添2-005-47改01	VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉浄化系)	P.4	鳥瞰図記号凡例のレストレイント及びスナップについて、斜め拘束の場合を追加し、記載を適正化しました。	2023/2/7	
230	NS2-添2-005-47改01	VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉浄化系)	P.10	レストレイントを実線から破線に変更しました。	2023/2/7	
231	NS2-添2-005-47改01	VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉浄化系)	P.13,14	設計条件について、許容応力状態別の記載とし、表を2つに分割しました。	2023/2/7	
232	NS2-添2-005-47改01	VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉浄化系)	P.22	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) 本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答スペクトルを下表に示す。 なお、設計用床応答スペクトルは、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき策定したものを 用いる。また、減衰定数はVI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。 (新) 本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答スペクトル及び <u>等価繰返し回数</u> を下表に示す。 なお、設計用床応答スペクトルは、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定したものを 用いる。減衰定数は、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。 <u>等価繰返し回数は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に基づき設定したものを</u> 用いる。	2023/2/7	
233	NS2-添2-005-47改01	VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉浄化系)	P.22	表に等価繰返し回数の欄を追加しました。	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
234	NS2-添2-005-47改01	VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉浄化系)	P.23	<p>注記を追加及び適正化しました。(下線部参照)また、追加に伴い注記の位置を修正しました。</p> <p>(旧)</p> <p>注記*1: 固有周期が0.050s以上のモードを示す。0.020s以上0.050s未満のモードに対しては、最大応答加速度又はこれを上回る震度を適用する。なお、1次固有周期が0.050s未満である場合は、1次モードのみを示す。</p> <p>*2: 設計用床応答スペクトル I (弾性設計用地震動Sd)又はこれを上回る設計用床応答スペクトルより得られる震度</p> <p>*3: 設計用床応答スペクトル I (基準地震動Ss)又はこれを上回る設計用床応答スペクトルより得られる震度</p> <p>*4: 設計用震度 I (弾性設計用地震動Sd)又はこれを上回る設計震度及び設計用震度 I (基準地震動Ss)又はこれを上回る震度</p> <p>*5: 3.6・CI及び1.2・CVより定めた震度</p> <p>(新)</p> <p>注記*1: 固有周期が0.050s以上のモードを示す。0.020s以上0.050s未満のモードに対しては、最大応答加速度又はこれを上回る震度を適用する。なお、1次固有周期が0.050s未満である場合は、1次モードのみを示す。</p> <p>*2: 設計用床応答スペクトル I (弾性設計用地震動Sd)により得られる震度</p> <p>*3: 設計用床応答スペクトル I (基準地震動Ss)により得られる震度</p> <p>*4: 設計用震度 I (弾性設計用地震動Sd)及び設計用震度 I (基準地震動Ss)</p> <p>*5: 最大応答加速度を1.2倍した震度</p> <p>*6: 3.6・CI及び1.2・CVより定めた震度</p>	2023/2/7	
235	NS2-添2-005-47改01	VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉浄化系)	P.24	<p>記載を適正化しました。(下線部参照)</p> <p>(旧)注記*: 刺激係数は、モード質量を正規化し、固有ベクトルと質量マトリックスの積から算出した値を示す。</p> <p>(新)注記*: モード質量を正規化するモードベクトルを用いる。</p>	2023/2/7	
236	NS2-添2-005-47改01	VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉浄化系)	P.29	<p>記載を適正化しました。(下線部参照)</p> <p>(旧)</p> <p>膜+曲げ(2.25・Sm)</p> <p>ねじり(0.55・Sm)</p> <p>ねじり+曲げ(1.8・Sm)</p> <p>一次+二次応力(3・Sm)</p> <p>疲労累積係数</p> <p>(新)</p> <p>膜+曲げ S_{pm}(2.25・Sm)</p> <p>ねじり S_t(0.55・Sm)</p> <p>ねじり+曲げ S_t+S_b(1.8・Sm)</p> <p>一次+二次応力 S_n(3・Sm)</p> <p>疲労累積係数 $U+U_s$</p>	2023/2/7	
237	NS2-添2-005-47改01	VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉浄化系)	P.30	<p>許容荷重を一次評価と二次評価に分け、それぞれに注記を追記しました。</p> <p><追記></p> <p>注記*1: あらかじめ設定した設計上の基準値を許容荷重として実施する評価</p> <p>*2: 計算荷重があらかじめ設定した設計上の基準値を超過した箇所に対して、JEAG4601に定める許容限界を満足する範囲内で新たに設定した設計上の基準値を許容荷重として実施する評価。なお、一次評価を満足する場合は「一」と記載する。</p>	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
238	NS2-添2-005-47改01	VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉浄化系)	P.31	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 4: 水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
239	NS2-添2-005-47改01	VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉浄化系)	P.31	動作機能確認済加速度及び構造強度評価結果について、「詳細評価」で実施することが分かるよう表を適正化しました。	2023/2/7	
240	NS2-添2-005-47改01	VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉浄化系)	P.31	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧) * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「—」と記載する。 (新) * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 3: 詳細評価対象外の場合は「—」と記載する。	2023/2/7	
241	NS2-添2-005-47改01	VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉浄化系)	P.31	α (Sd), β (Sd)を削除しました。	2023/2/7	
242	NS2-添2-005-47改01	VI-2-5-8-1-1 管の耐震性についての計算書(原子炉浄化系)	P.31	弁の形式について、NS2-補-027-10-98の記載と整合させました。 (旧)止め弁 (新)電動ゲート弁	2023/2/7	
243	NS2-添2-006-05改02	VI-2-6-3-2-1-2 管の耐震性についての計算書(制御棒駆動水圧系)	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
244	NS2-添2-006-05改02	VI-2-6-3-2-1-2 管の耐震性についての計算書(制御棒駆動水圧系)	P.4	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
245	NS2-添2-006-05改02	VI-2-6-3-2-1-2 管の耐震性についての計算書(制御棒駆動水圧系)	P.23	記載を適正化しました。 (旧)策定 (新)設定	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
246	NS2-添2-006-05改02	VI-2-6-3-2-1-2 管の耐震性についての計算書(制御棒駆動水圧系)	P.38	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 4: 水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
247	NS2-添2-006-05改02	VI-2-6-3-2-1-2 管の耐震性についての計算書(制御棒駆動水圧系)	P.38	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧)* 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「—」と記載する。 (新)* 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 3: 詳細評価対象外の場合は「—」と記載する。	2023/2/7	
248	NS2-添2-006-05改02	VI-2-6-3-2-1-2 管の耐震性についての計算書(制御棒駆動水圧系)	P.38	α (Sd), β (Sd)を削除しました。	2023/2/7	
249	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	表紙	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書 (新)VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	2023/2/7	
250	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	目次	ページ番号を適正化しました。	2023/2/7	
251	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.1	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)本計算書は、VI-2-1-14「添付資料-6 管の耐震性についての計算書作成の基本方針」(以下「基本方針」という。)に基づき、管、支持構造物及び弁が設計用地震力に対して十分な構造強度を有し、動的機能を維持できることを説明するものである。 (新)本計算書は、VI-2-1-14「機器・配管系の計算書作成の方法 添付資料-6 管の耐震性についての計算書作成の基本方針」(以下「基本方針」という。)に基づき、ほう酸水注入系の管、支持構造物及び弁が設計用地震力に対して十分な構造強度を有し、動的機能を維持できることを説明するものである。	2023/2/7	
252	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
253	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.4	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
254	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.4	鳥瞰図記号凡例のレストレイント及びスナッパについて、斜め拘束の場合を追加し、記載を適正化しました。	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
255	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.6,8	鳥瞰図を変更しました。	2023/2/7	
256	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.18,19	注記を追記し、以降の注記については番号を適正化しました。 <追記> *6:原子炉格納容器バウンダリにおいて考慮する。	2023/2/7	
257	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.20,21,25,26	設計条件について、許容応力状態別の記載とし、表を2つに分割しました。	2023/2/7	
258	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.33	許容応力状態を区分したことに伴い、追加した最高使用温度の許容応力を追加しました。	2023/2/7	
259	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.34	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答スペクトルを下表に示す。 なお、設計用床応答スペクトルは、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき策定したものを 用いる。また、減衰定数はVI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。 (新)本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答スペクトル及び等価繰返し回数 を下表に示す。 なお、設計用床応答スペクトルは、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定したものを 用いる。減衰定数は、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。等価繰返し回数は、 VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に基づき設定したものを 用いる。	2023/2/7	
260	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.35,41	注記を追加及び適正化しました。(下線部参照)また、追加に伴い注記の位置を修正しました。 (旧) 注記*1:固有周期が0.050s以上のモードを示す。0.020s以上0.050s未満のモードに対し ては、最大応答加速度又はこれを上回る震度を適用する。なお、1次固有周期が 0.050s未満である場合は、1次モードのみを示す。 *2:設計用床応答スペクトル I (弾性設計用地震動Sd)又はこれを上回る設計用床 応答スペクトルより得られる震度 *3:設計用床応答スペクトル I (基準地震動Ss)又はこれを上回る設計用床 応答スペクトルより得られる震度 *4:設計用震度 I (弾性設計用地震動Sd)又はこれを上回る設計震度及び設計用震度 I (基準地震動Ss)又はこれを上回る震度 *5:3.6・Ci及び1.2・CVより定めた震度 (新) 注記*1:固有周期が0.050s以上のモードを示す。0.020s以上0.050s未満のモードに対し ては、最大応答加速度又はこれを上回る震度を適用する。なお、1次固有周期が 0.050s未満である場合は、1次モードのみを示す。 *2:設計用床応答スペクトル I (弾性設計用地震動Sd)により得られる震度 *3:設計用床応答スペクトル I (基準地震動Ss)により得られる震度 *4:設計用震度 I (弾性設計用地震動Sd)及び設計用震度 I (基準地震動Ss) *5:最大応答加速度を1.2倍した震度 *6:3.6・Ci及び1.2・CVより定めた震度	2023/2/7	
261	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.36	ATWS条件変更に伴い、刺激係数を変更しました。	2023/2/7	
262	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.36,42	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)注記*:刺激係数は、モード質量を正規化し、固有ベクトルと質量マトリックスの 積から算出した値を示す。 (新)注記*:モード質量を正規化するモードベクトルを用いる。	2023/2/7	
263	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.38~40,44	ATWS条件変更に伴い、代表的振動モード図を変更しました。	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
264	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.45,46	表をクラス2以下の管と重大事故等クラス2管に分割しました。	2023/2/7	
265	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.45	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)疲労累積係数 (新)疲労累積係数 <u>USd</u> <u>USs</u>	2023/2/7	
266	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.45	IVASを追加し、ⅢASの記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)一次応力(S_y^*) 一次+二次応力($2 \cdot S_y$) (新)一次応力 <u>Spr_m</u> (S_y^*) 一次+二次応力 <u>S_n</u> ($2 \cdot S_y$)	2023/2/7	
267	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.46	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)疲労累積係数 (新)疲労累積係数 <u>USs</u>	2023/2/7	
268	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.46	IVASを追加し、VASの記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)一次応力($0.9 \cdot S_u$) 一次+二次応力($2 \cdot S_y$) (新)一次応力 <u>Spr_m</u> ($0.9 \cdot S_u$) 一次+二次応力 <u>S_n</u> ($2 \cdot S_y$)	2023/2/7	
269	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.47	許容荷重を一次評価と二次評価に分け、それぞれに注記を追記しました。 <追記> 注記 * 1: あらかじめ設定した設計上の基準値を許容荷重として実施する評価 * 2: 計算荷重があらかじめ設定した設計上の基準値を超過した箇所に対して、JEAG4601に定める許容限界を満足する範囲内で新たに設定した設計上の基準値を許容荷重として実施する評価。なお、一次評価を満足する場合は「一」と記載する。	2023/2/7	
270	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.48	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 4: 水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、 <u>詳細評価を実施する場合に使用する。</u>	2023/2/7	
271	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.48	動作機能確認済加速度及び構造強度評価結果について、「詳細評価」で実施することが分かるよう表を適正化しました。	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
272	NS2-添2-006-08改01	VI-2-6-4-1-3 管の耐震性についての計算書(ほう酸水注入系)	P.48	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧)*2:機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「―」と記載する。 (新)*2:水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 *3:詳細評価対象外の場合は「―」と記載する。	2023/2/7	
273	NS2-添2-006-63	VI-2-6-6-1-1 管の耐震性についての計算書(逃がし安全弁窒素ガス供給系)	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
274	NS2-添2-006-63	VI-2-6-6-1-1 管の耐震性についての計算書(逃がし安全弁窒素ガス供給系)	P.4~7	管クラスの範囲について図示を追加し、管クラスに関する注記を削除しました。	2023/2/7	
275	NS2-添2-006-63	VI-2-6-6-1-1 管の耐震性についての計算書(逃がし安全弁窒素ガス供給系)	P.8	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
276	NS2-添2-006-63	VI-2-6-6-1-1 管の耐震性についての計算書(逃がし安全弁窒素ガス供給系)	P.14,15,19,21,28,36	鳥瞰図の点線の範囲を適正化しました。	2023/2/7	
277	NS2-添2-006-63	VI-2-6-6-1-1 管の耐震性についての計算書(逃がし安全弁窒素ガス供給系)	P.58	記載を適正化しました。 (旧)策定 (新)設定	2023/2/7	
278	NS2-添2-006-63	VI-2-6-6-1-1 管の耐震性についての計算書(逃がし安全弁窒素ガス供給系)	P.59	設計震度を変更しました。	2023/2/7	
279	NS2-添2-006-63	VI-2-6-6-1-1 管の耐震性についての計算書(逃がし安全弁窒素ガス供給系)	P.74	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 *2:機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 *2:水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 *4:水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
280	NS2-添2-006-63	VI-2-6-6-1-1 管の耐震性についての計算書(逃がし安全弁窒素ガス供給系)	P.74	動作機能確認済加速度及び構造強度評価結果について、「詳細評価」で実施することが分かるよう表を適正化しました。	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
281	NS2-添2-006-63	VI-2-6-6-1-1 管の耐震性についての計算書(逃がし安全弁窒素ガス供給系)	P.74	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧)*2:機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「―」と記載する。 (新)*2:水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 *3:詳細評価対象外の場合は「―」と記載する。	2023/2/7	
282	NS2-添2-006-63	VI-2-6-6-1-1 管の耐震性についての計算書(逃がし安全弁窒素ガス供給系)	P.74	α (Sd), β (Sd)を削除しました。	2023/2/7	
283	NS2-添2-007-02改01	VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	表紙	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書 (新)VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	2023/2/7	
284	NS2-添2-007-02改01	VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	目次	ページ番号を適正化しました。	2023/2/7	
285	NS2-添2-007-02改01	VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	P.1	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) 本計算書は、VI-2-1-14「添付資料-6 管の耐震性についての計算書作成の基本方針」(以下「基本方針」という。)に基づき、管、支持構造物及び弁が設計用地震力に対して十分な構造強度を有し、動的機能を維持できることを説明するものである。 (新) 本計算書は、VI-2-1-14「機器・配管系の計算書作成の方法」添付資料-6 管の耐震性についての計算書作成の基本方針」(以下「基本方針」という。)に基づき、ドレン移送系の管、支持構造物及び弁が設計用地震力に対して十分な構造強度を有し、動的機能を維持できることを説明するものである。	2023/2/7	
286	NS2-添2-007-02改01	VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
287	NS2-添2-007-02改01	VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	P.3	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)液体廃棄物処理系(ドレン移送系)概略系統図 (新)ドレン移送系概略系統図	2023/2/7	
288	NS2-添2-007-02改01	VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	P.4	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
289	NS2-添2-007-02改01	VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	P.4	鳥瞰図記号凡例のレストレイント及びスナップについて、斜め拘束の場合を追加し、記載を適正化しました。	2023/2/7	
290	NS2-添2-007-02改01	VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	P.5	鳥瞰図を適正化しました。	2023/2/7	
291	NS2-添2-007-02改01	VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	P.7	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)気体、液体又は固体廃棄物処理設備、液体廃棄物処理系(ドレン移送系) (新)液体廃棄物処理系、ドレン移送系	2023/2/7	
292	NS2-添2-007-02改01	VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	P.8	設計条件について、許容応力状態別の記載とし、表を2つに分割しました。	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
293	NS2-添2-007-02改01	VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	P.14	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答スペクトルを下表に示す。 なお、設計用床応答スペクトルは、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき策定したものを 用いる。また、減衰定数はVI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。 (新)本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答スペクトル及び等価繰返し回数 を下表に示す。 なお、設計用床応答スペクトルは、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定したものを 用いる。減衰定数は、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。等価繰返し回数は、VI -2-1-9「機能維持の基本方針」に基づき設定したものを 用いる。	2023/2/7	
294	NS2-添2-007-02改01	VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	P.14	標高の表示桁数を適正化しました。	2023/2/7	
295	NS2-添2-007-02改01	VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	P.14	表に等価繰返し回数の欄を追加しました。	2023/2/7	
296	NS2-添2-007-02改01	VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	P.15	注記を追加及び適正化しました。(下線部参照)また、追加に伴い注記の位置を修正しました。 (旧) 注記*1:固有周期が0.050s以上のモードを示す。0.020s以上0.050s未満のモードに対し ては、最大応答加速度又はこれを上回る震度を適用する。なお、1次固有周期が 0.050s未満である場合は、1次モードのみを示す。 *2:設計用床応答スペクトル I (弾性設計用地震動Sd)又はこれを上回る設計用床応 答スペクトルより得られる震度 *3:設計用床応答スペクトル I (基準地震動Ss)又はこれを上回る設計用床応スベ クトルより得られる震度 *4:設計用震度 I (弾性設計用地震動Sd)又はこれを上回る設計震度及び設計用震度 I (基準地震動Ss)又はこれを上回る震度 *5:3.6・CI及び1.2・CVより定めた震度 (新) 注記*1:固有周期が0.050s以上のモードを示す。0.020s以上0.050s未満のモードに対し ては、最大応答加速度又はこれを上回る震度を適用する。なお、1次固有周期が 0.050s未満である場合は、1次モードのみを示す。 *2:設計用床応答スペクトル I (弾性設計用地震動Sd)により得られる震度 *3:設計用床応答スペクトル I (基準地震動Ss)により得られる震度 *4:設計用震度 I (弾性設計用地震動Sd)及び設計用震度 I (基準地震動Ss) *5:最大応答加速度を1.2倍した震度 *6:3.6・CI及び1.2・CVより定めた震度	2023/2/7	
297	NS2-添2-007-02改01	VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	P.16	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)注記*:刺激係数は、モード質量を正規化し、固有ベクトルと質量マトリックスの 積から算出した値を示す。 (新)注記*:モード質量を正規化するモードベクトルを用いる。	2023/2/7	
298	NS2-添2-007-02改01	VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	P.20	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)疲労累積係数 (新)疲労累積係数 USd USs	2023/2/7	
299	NS2-添2-007-02改01	VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	P.20	IVASを追加し、ⅢASの記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)一次応力(Sy*) 一次+二次応力(2・Sy) (新)一次応力 Sprm(Sy*) 一次+二次応力 Sn(2・Sy)	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
300	NS2-添2-007-02改01	VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	P.21	許容荷重を一次評価と二次評価に分け、それぞれに注記を追記しました。 <追記> 注記*1:あらかじめ設定した設計上の基準値を許容荷重として実施する評価 *2:計算荷重があらかじめ設定した設計上の基準値を超過した箇所に対して、JEAG4601に定める許容限界を満足する範囲内で新たに設定した設計上の基準値を許容荷重として実施する評価。なお、一次評価を満足する場合は「—」と記載する。	2023/2/7	
301	NS2-添2-007-02改01	VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	P.22	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 *2:機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 *2:水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 *4:水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
302	NS2-添2-007-02改01	VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	P.22	動作機能確認済加速度及び構造強度評価結果について、「詳細評価」で実施することが分かるよう表を適正化しました。	2023/2/7	
303	NS2-添2-007-02改01	VI-2-7-2-1-1 管の耐震性についての計算書(ドレン移送系)	P.22	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧)*2:機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「—」と記載する。 (新)*2:水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 *3:詳細評価対象外の場合は「—」と記載する。	2023/2/7	
304	NS2-添2-008-16改02	VI-2-8-3-2-1 管の耐震性についての計算書(中央制御室空気供給系)	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
305	NS2-添2-008-16改02	VI-2-8-3-2-1 管の耐震性についての計算書(中央制御室空気供給系)	P.8	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
306	NS2-添2-008-16改02	VI-2-8-3-2-1 管の耐震性についての計算書(中央制御室空気供給系)	P.25	記載を適正化しました。 (旧)策定 (新)設定	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
307	NS2-添2-008-16改02	VI-2-8-3-2-1 管の耐震性についての計算書(中央制御室空気供給系)	P.37	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 4: 水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
308	NS2-添2-008-16改02	VI-2-8-3-2-1 管の耐震性についての計算書(中央制御室空気供給系)	P.37	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧) * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「—」と記載する。 (新) * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 3: 詳細評価対象外の場合は「—」と記載する。	2023/2/7	
309	NS2-添2-008-16改02	VI-2-8-3-2-1 管の耐震性についての計算書(中央制御室空気供給系)	P.37	$\alpha(S_d)$, $\beta(S_d)$ を削除しました。	2023/2/7	
310	NS2-添2-008-17改02	VI-2-8-3-3-1 管の耐震性についての計算書(緊急時対策所換気空調系)	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
311	NS2-添2-008-17改02	VI-2-8-3-3-1 管の耐震性についての計算書(緊急時対策所換気空調系)	P.4	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
312	NS2-添2-008-17改02	VI-2-8-3-3-1 管の耐震性についての計算書(緊急時対策所換気空調系)	P.15	記載を適正化しました。 (旧)策定 (新)設定	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
313	NS2-添2-008-17改02	VI-2-8-3-3-1 管の耐震性についての計算書(緊急時対策所換気空調系)	P.22	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 4: 水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
314	NS2-添2-008-17改02	VI-2-8-3-3-1 管の耐震性についての計算書(緊急時対策所換気空調系)	P.22	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧)* 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「―」と記載する。 (新)* 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 3: 詳細評価対象外の場合は「―」と記載する。	2023/2/7	
315	NS2-添2-008-17改02	VI-2-8-3-3-1 管の耐震性についての計算書(緊急時対策所換気空調系)	P.22	$\alpha(S_d)$, $\beta(S_d)$ を削除しました。	2023/2/7	
316	NS2-添2-009-25	VI-2-9-4-4-2-1 管の耐震性についての計算書(格納容器代替スプレイ系)	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管, 又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管, 又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
317	NS2-添2-009-25	VI-2-9-4-4-2-1 管の耐震性についての計算書(格納容器代替スプレイ系)	P.4	誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)B-残留熱除去系より (新)残留熱代替除去系より	2023/2/7	
318	NS2-添2-009-25	VI-2-9-4-4-2-1 管の耐震性についての計算書(格納容器代替スプレイ系)	P.5	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管, 又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管, 又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
319	NS2-添2-009-25	VI-2-9-4-4-2-1 管の耐震性についての計算書(格納容器代替スプレイ系)	P.18	記載を適正化しました。 (旧)策定 (新)設定	2023/2/7	
320	NS2-添2-009-25	VI-2-9-4-4-2-1 管の耐震性についての計算書(格納容器代替スプレイ系)	P.19	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)* 2: 設計用床応答スペクトルⅡ(基準地震動 S_s)より得られる震度 (新)* 2: 設計用床応答スペクトルⅡ(基準地震動 S_s)により得られる震度	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
321	NS2-添2-009-25	VI-2-9-4-4-2-1 管の耐震性についての計算書(格納容器代替スプレイ系)	P.27	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 4: 水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
322	NS2-添2-009-25	VI-2-9-4-4-2-1 管の耐震性についての計算書(格納容器代替スプレイ系)	P.27	動作機能確認済加速度及び構造強度評価結果について、「詳細評価」で実施することが分かるよう表を適正化しました。	2023/2/7	
323	NS2-添2-009-25	VI-2-9-4-4-2-1 管の耐震性についての計算書(格納容器代替スプレイ系)	P.27	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧) * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「—」と記載する。 (新) * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 3: 詳細評価対象外の場合は「—」と記載する。	2023/2/7	
324	NS2-添2-009-25	VI-2-9-4-4-2-1 管の耐震性についての計算書(格納容器代替スプレイ系)	P.27	α (Sd), β (Sd)を削除しました。	2023/2/7	
325	NS2-添2-009-26	VI-2-9-4-4-3-1 管の耐震性についての計算書(ペDESTAL代替注水系)	目次	ページ番号を適正化しました。	2023/2/7	
326	NS2-添2-009-26	VI-2-9-4-4-3-1 管の耐震性についての計算書(ペDESTAL代替注水系)	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) 工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新) 工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
327	NS2-添2-009-26	VI-2-9-4-4-3-1 管の耐震性についての計算書(ペDESTAL代替注水系)	P.4	主ラインが残留熱除去系であることがわかりやすくなるよう、概略系統図を変更しました。	2023/2/7	
328	NS2-添2-009-26	VI-2-9-4-4-3-1 管の耐震性についての計算書(ペDESTAL代替注水系)	P.5	誤記を修正しました。(下線部参照) (旧) B-残留熱除去系より (新) 残留熱代替除去系より	2023/2/7	
329	NS2-添2-009-26	VI-2-9-4-4-3-1 管の耐震性についての計算書(ペDESTAL代替注水系)	P.6	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) 工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新) 工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
330	NS2-添2-009-26	VI-2-9-4-4-3-1 管の耐震性についての計算書(ペDESTAL代替注水系)	P.6	鳥瞰図記号凡例のレストレイント及びスナップについて、斜め拘束の場合を追加し、記載を適正化しました。	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
331	NS2-添2-009-26	VI-2-9-4-4-3-1 管の耐震性についての計算書(ペDESTAL代替注水系)	P.14	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) $V L(L)+S d^{*6\sim*8}$ *6:原子炉冷却材圧力バウンダリのみにおいて考慮する。 (新) $V L(L)+S d^{*6,*7,*8}$ *6:原子炉冷却材圧力バウンダリにおいて考慮する。	2023/2/7	
332	NS2-添2-009-26	VI-2-9-4-4-3-1 管の耐震性についての計算書(ペDESTAL代替注水系)	P.15,16,21,22	設計条件について、許容応力状態別の記載とし、表を2つに分割しました。	2023/2/7	
333	NS2-添2-009-26	VI-2-9-4-4-3-1 管の耐震性についての計算書(ペDESTAL代替注水系)	P.27	許容応力状態を区分したことに伴い、追加した最高使用温度の許容応力を追加しました。	2023/2/7	
334	NS2-添2-009-26	VI-2-9-4-4-3-1 管の耐震性についての計算書(ペDESTAL代替注水系)	P.28	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答スペクトルを下表に示す。 なお、設計用床応答スペクトルは、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき策定したものを 用いる。また、減衰定数はVI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。 (新)本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答スペクトル及び等価繰返し回 数を下表に示す。 なお、設計用床応答スペクトルは、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定したものを 用いる。減衰定数は、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。等価繰返し回数は、 VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に基づき設定したものを 用いる。	2023/2/7	
335	NS2-添2-009-26	VI-2-9-4-4-3-1 管の耐震性についての計算書(ペDESTAL代替注水系)	P.29,35	注記を追加及び適正化しました。(下線部参照) (旧) 注記*1:固有周期が0.050s以上のモードを示す。0.020s以上0.050s未満のモードに対し ては、最大応答加速度又はこれを上回る震度を適用する。なお、1次固有周期が 0.050s未満である場合は、1次モードのみを示す。 *2:設計用床応答スペクトル I (弾性設計用地震動Sd)又はこれを上回る設計用床 応答スペクトルより得られる震度 *3:設計用震度 II (基準地震動Ss)又はこれを上回る設計震度 (新) 注記*1:固有周期が0.050s以上のモードを示す。0.020s以上0.050s未満のモードに対し ては、最大応答加速度又はこれを上回る震度を適用する。なお、1次固有周期が 0.050s未満である場合は、1次モードのみを示す。 *2:設計用床応答スペクトル I (弾性設計用地震動Sd)により得られる震度 *3:設計用震度 II (基準地震動Ss) *4:最大応答加速度を1.2倍した震度	2023/2/7	
336	NS2-添2-009-26	VI-2-9-4-4-3-1 管の耐震性についての計算書(ペDESTAL代替注水系)	P.30,36	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)注記*:刺激係数は、モード質量を正規化し、固有ベクトルと質量マトリックスの 積から算出した値を示す。 (新)注記*:モード質量を正規化するモードベクトルを用いる。	2023/2/7	
337	NS2-添2-009-26	VI-2-9-4-4-3-1 管の耐震性についての計算書(ペDESTAL代替注水系)	P.41	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)疲労累積係数 (新)疲労累積係数 $U S s$	2023/2/7	
338	NS2-添2-009-26	VI-2-9-4-4-3-1 管の耐震性についての計算書(ペDESTAL代替注水系)	P.41	IVASを追加し、VASの記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)一次応力(0.9・Su) 一次+二次応力(2・Sy) (新)一次応力 $S p r m(0.9 \cdot S u)$ 一次+二次応力 $S n(2 \cdot S y)$	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
339	NS2-添2-009-26	VI-2-9-4-4-3-1 管の耐震性についての計算書(ペDESTAL代替注水系)	P.43	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 4: 水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
340	NS2-添2-009-26	VI-2-9-4-4-3-1 管の耐震性についての計算書(ペDESTAL代替注水系)	P.43	動作機能確認済加速度及び構造強度評価結果について、「詳細評価」で実施することが分かるよう表を適正化しました。	2023/2/7	
341	NS2-添2-009-26	VI-2-9-4-4-3-1 管の耐震性についての計算書(ペDESTAL代替注水系)	P.43	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧) * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「—」と記載する。 (新) * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 3: 詳細評価対象外の場合は「—」と記載する。	2023/2/7	
342	NS2-添2-009-26	VI-2-9-4-4-3-1 管の耐震性についての計算書(ペDESTAL代替注水系)	P.43	$\alpha(Sd)$, $\beta(Sd)$ を削除しました。	2023/2/7	
343	NS2-添2-009-26	VI-2-9-4-4-3-1 管の耐震性についての計算書(ペDESTAL代替注水系)	P.44	許容応力状態IVASの評価結果を追加しました。	2023/2/7	
344	NS2-添2-009-28	VI-2-9-4-4-4-2 管の耐震性についての計算書(残留熱代替除去系)	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) 工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新) 工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
345	NS2-添2-009-28	VI-2-9-4-4-4-2 管の耐震性についての計算書(残留熱代替除去系)	P.6	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) 工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新) 工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
346	NS2-添2-009-28	VI-2-9-4-4-4-2 管の耐震性についての計算書(残留熱代替除去系)	P.16	記載を適正化しました。 (旧) 策定 (新) 設定	2023/2/7	
347	NS2-添2-009-28	VI-2-9-4-4-4-2 管の耐震性についての計算書(残留熱代替除去系)	P.17	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) * 2: 設計用床応答スペクトルⅡ(基準地震動 S_s)より得られる震度 (新) * 2: 設計用床応答スペクトルⅡ(基準地震動 S_s)により得られる震度	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
348	NS2-添2-009-28	VI-2-9-4-4-4-2 管の耐震性についての計算書(残留熱代替除去系)	P.25	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 4: 水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
349	NS2-添2-009-28	VI-2-9-4-4-4-2 管の耐震性についての計算書(残留熱代替除去系)	P.25	動作機能確認済加速度及び構造強度評価結果について、「詳細評価」で実施することが分かるよう表を適正化しました。	2023/2/7	
350	NS2-添2-009-28	VI-2-9-4-4-4-2 管の耐震性についての計算書(残留熱代替除去系)	P.25	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧) * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「—」と記載する。 (新) * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 3: 詳細評価対象外の場合は「—」と記載する。	2023/2/7	
351	NS2-添2-009-28	VI-2-9-4-4-4-2 管の耐震性についての計算書(残留熱代替除去系)	P.25	α (Sd), β (Sd)を削除しました。	2023/2/7	
352	NS2-添2-009-33改01	VI-2-9-4-5-2-1 管の耐震性についての計算書(可燃性ガス濃度制御系)	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
353	NS2-添2-009-33改01	VI-2-9-4-5-2-1 管の耐震性についての計算書(可燃性ガス濃度制御系)	P.4	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
354	NS2-添2-009-33改01	VI-2-9-4-5-2-1 管の耐震性についての計算書(可燃性ガス濃度制御系)	P.23	記載を適正化しました。 (旧)策定 (新)設定	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
355	NS2-添2-009-33改01	VI-2-9-4-5-2-1 管の耐震性についての計算書(可燃性ガス濃度制御系)	P.38	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 4: 水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
356	NS2-添2-009-33改01	VI-2-9-4-5-2-1 管の耐震性についての計算書(可燃性ガス濃度制御系)	P.38	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧)* 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「―」と記載する。 (新)* 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 3: 詳細評価対象外の場合は「―」と記載する。	2023/2/7	
357	NS2-添2-009-33改01	VI-2-9-4-5-2-1 管の耐震性についての計算書(可燃性ガス濃度制御系)	P.38	α (Sd), β (Sd)を削除しました。	2023/2/7	
358	NS2-添2-009-37	VI-2-9-4-6-1-1 管の耐震性についての計算書(窒素ガス制御系)	目次	ページ番号を適正化しました。	2023/2/7	
359	NS2-添2-009-37	VI-2-9-4-6-1-1 管の耐震性についての計算書(窒素ガス制御系)	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
360	NS2-添2-009-37	VI-2-9-4-6-1-1 管の耐震性についての計算書(窒素ガス制御系)	P.3	概略系統図を変更しました。	2023/2/7	
361	NS2-添2-009-37	VI-2-9-4-6-1-1 管の耐震性についての計算書(窒素ガス制御系)	P.4	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
362	NS2-添2-009-37	VI-2-9-4-6-1-1 管の耐震性についての計算書(窒素ガス制御系)	P.6,9,10	鳥瞰図を変更しました。	2023/2/7	
363	NS2-添2-009-37	VI-2-9-4-6-1-1 管の耐震性についての計算書(窒素ガス制御系)	P.8	レストレイントを細線から太線に変更しました。	2023/2/7	
364	NS2-添2-009-37	VI-2-9-4-6-1-1 管の耐震性についての計算書(窒素ガス制御系)	P.16~19	評価不要な(破線部の)評価点が含まれていたため、表から削除しました。	2023/2/7	
365	NS2-添2-009-37	VI-2-9-4-6-1-1 管の耐震性についての計算書(窒素ガス制御系)	P.27	記載を適正化しました。 (旧)策定 (新)設定	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
366	NS2-添2-009-37	VI-2-9-4-6-1-1 管の耐震性についての計算書(窒素ガス制御系)	P.28,34	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) * 2:設計用床応答スペクトル I (弾性設計用地震動Sd)より得られる震度 * 3:設計用床応答スペクトル I (基準地震動Ss)より得られる震度 (新) * 2:設計用床応答スペクトル I (弾性設計用地震動Sd)により得られる震度 * 3:設計用床応答スペクトル I (基準地震動Ss)により得られる震度	2023/2/7	
367	NS2-添2-009-37	VI-2-9-4-6-1-1 管の耐震性についての計算書(窒素ガス制御系)	P.42	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2:機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2:水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 4:水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
368	NS2-添2-009-37	VI-2-9-4-6-1-1 管の耐震性についての計算書(窒素ガス制御系)	P.42	動作機能確認済加速度及び構造強度評価結果について、「詳細評価」で実施することが分かるよう表を適正化しました。	2023/2/7	
369	NS2-添2-009-37	VI-2-9-4-6-1-1 管の耐震性についての計算書(窒素ガス制御系)	P.42	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧) * 2:機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「—」と記載する。 (新) * 2:水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 3:詳細評価対象外の場合は「—」と記載する。	2023/2/7	
370	NS2-添2-009-37	VI-2-9-4-6-1-1 管の耐震性についての計算書(窒素ガス制御系)	P.42	α (Sd), β (Sd)を削除しました。	2023/2/7	
371	NS2-添2-010-23	VI-2-10-1-2-3-6 管の耐震性についての計算書(ガスタービン発電機)	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
372	NS2-添2-010-23	VI-2-10-1-2-3-6 管の耐震性についての計算書(ガスタービン発電機)	P.6	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
373	NS2-添2-010-23	VI-2-10-1-2-3-6 管の耐震性についての計算書(ガスタービン発電機)	P.18	記載を適正化しました。 (旧)策定 (新)設定	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
374	NS2-添2-010-23	VI-2-10-1-2-3-6 管の耐震性についての計算書(ガスタービン発電機)	P.27	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 4: 水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
375	NS2-添2-010-23	VI-2-10-1-2-3-6 管の耐震性についての計算書(ガスタービン発電機)	P.27	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧) * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「—」と記載する。 (新) * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 3: 詳細評価対象外の場合は「—」と記載する。	2023/2/7	
376	NS2-添2-010-23	VI-2-10-1-2-3-6 管の耐震性についての計算書(ガスタービン発電機)	P.27	α (Sd), β (Sd)を削除しました。	2023/2/7	
377	NS2-添2-011-15	VI-2-10-2-11 隔離弁、機器・配管の耐震性についての計算書	P.98,99	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 4: 水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
378	NS2-添2-011-15	VI-2-10-2-11 隔離弁、機器・配管の耐震性についての計算書	P.98,99	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧) * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「—」と記載する。 (新) * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 3: 詳細評価対象外の場合は「—」と記載する。	2023/2/7	
379	NS2-添2-011-15	VI-2-10-2-11 隔離弁、機器・配管の耐震性についての計算書	P.98,99	α (Sd), β (Sd)を削除しました。	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
380	NS2-添2-017-04	VI-2-別添2-4 燃料プール冷却系弁の耐震性についての計算書	目次,P.2	章タイトルを適正化しました。(下線部参照) (旧)2. 概略系統図及び鳥瞰図 (新)2. 概略系統図、鳥瞰図及び構造計画	2023/2/7	
381	NS2-添2-017-04	VI-2-別添2-4 燃料プール冷却系弁の耐震性についての計算書	目次	ページ番号を適正化しました。	2023/2/7	
382	NS2-添2-017-04	VI-2-別添2-4 燃料プール冷却系弁の耐震性についての計算書	P.1	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)設計基準対象施設としての構造強度評価および動的機能維持評価を示す。 (新)設計基準対象施設としての構造強度評価及び動的機能維持評価を示す。	2023/2/7	
383	NS2-添2-017-04	VI-2-別添2-4 燃料プール冷却系弁の耐震性についての計算書	P.4	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)本計算書に評価結果を記載しない管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)本計算書に評価結果を記載しない管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
384	NS2-添2-017-04	VI-2-別添2-4 燃料プール冷却系弁の耐震性についての計算書	P.4	鳥瞰図記号凡例のレストレイント及びスナツバについて、斜め拘束の場合を追加し、記載を適正化しました。	2023/2/7	
385	NS2-添2-017-04	VI-2-別添2-4 燃料プール冷却系弁の耐震性についての計算書	P.4	SsとSdの両方の相対変位を記載する図に変更し、説明を追記しました。 <追記> なお、Ss機能維持の範囲はSs地震動による変位量のみを記載する。	2023/2/7	
386	NS2-添2-017-04	VI-2-別添2-4 燃料プール冷却系弁の耐震性についての計算書	P.7,8	鳥瞰図を変更しました。	2023/2/7	
387	NS2-添2-017-04	VI-2-別添2-4 燃料プール冷却系弁の耐震性についての計算書	P.12,13	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)弁体を含む弁本体、弁体を電動にて駆動する駆動部で構成される。 燃料プール冷却系の管に設置される。弁が設置された管は支持構造物にて支持される。 弁設置位置 (新)弁体を含む弁本体、弁体を電動にて駆動する駆動部で構成する。 燃料プール冷却系配管に固定される。配管については、床面に支持構造物にて固定する。 弁設置位置図	2023/2/7	
388	NS2-添2-017-04	VI-2-別添2-4 燃料プール冷却系弁の耐震性についての計算書	P.16,17,22,23	設計条件について、許容応力状態別の記載とし、表を2つに分割しました。	2023/2/7	
389	NS2-添2-017-04	VI-2-別添2-4 燃料プール冷却系弁の耐震性についての計算書	P.29	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答スペクトルを下表に示す。 なお、設計用床応答スペクトルは、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき策定したものを 用いる。また、減衰定数はVI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。 (新)本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答スペクトル及び等価繰返し回数 を下表に示す。 なお、設計用床応答スペクトルは、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定したものを 用いる。減衰定数は、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。等価繰返し回数は、 VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に基づき設定したものを 用いる。	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
390	NS2-添2-017-04	VI-2-別添2-4 燃料プール冷却系弁の耐震性についての計算書	P.30,36	注記を追加及び適正化しました。(下線部参照) (旧) 注記*1:固有周期が0.050s以上のモードを示す。0.020s以上0.050s未満のモードに対しては、最大応答加速度又はこれを上回る震度を適用する。なお、1次固有周期が0.050s未満である場合は、1次モードのみを示す。 *2:設計用床応答スペクトルⅡ(基準地震動Ss)より得られる震度 *3:設計用震度Ⅱ(基準地震動Ss) (新) 注記*1:固有周期が0.050s以上のモードを示す。0.020s以上0.050s未満のモードに対しては、最大応答加速度又はこれを上回る震度を適用する。なお、1次固有周期が0.050s未満である場合は、1次モードのみを示す。 *2:設計用震度Ⅱ(基準地震動Ss) *3:最大応答加速度を1.2倍した震度	2023/2/7	
391	NS2-添2-017-04	VI-2-別添2-4 燃料プール冷却系弁の耐震性についての計算書	P.31,37	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)注記*:刺激係数は、モード質量を正規化し、固有ベクトルと質量マトリックスの積から算出した値を示す。 (新)注記*:モード質量を正規化するモードベクトルを用いる。	2023/2/7	
392	NS2-添2-017-04	VI-2-別添2-4 燃料プール冷却系弁の耐震性についての計算書	P.42	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)疲労累積係数 (新)疲労累積係数 USs	2023/2/7	
393	NS2-添2-017-04	VI-2-別添2-4 燃料プール冷却系弁の耐震性についての計算書	P.42	IVASを追加し、VASの記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)一次応力(0.9・Su) 一次+二次応力(2・Sy) (新)一次応力 $S_{prn}(0.9 \cdot Su)$ 一次+二次応力 $S_n(2 \cdot Sy)$	2023/2/7	
394	NS2-添2-017-04	VI-2-別添2-4 燃料プール冷却系弁の耐震性についての計算書	P.44	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 *2:機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 *2:水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 *4:水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
395	NS2-添2-017-04	VI-2-別添2-4 燃料プール冷却系弁の耐震性についての計算書	P.44	動作機能確認済加速度及び構造強度評価結果について、「詳細評価」で実施することが分かるよう表を適正化しました。	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
396	NS2-添2-017-04	VI-2-別添2-4 燃料プール冷却系弁の耐震性についての計算書	P.44	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧)*2:機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「—」と記載する。 (新)*2:水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 *3:詳細評価対象外の場合は「—」と記載する。	2023/2/7	
397	NS2-添2-017-04	VI-2-別添2-4 燃料プール冷却系弁の耐震性についての計算書	P.44	α (Sd), β (Sd)を削除しました。	2023/2/7	
398	NS2-添2-017-05	VI-2-別添2-5 大型タンク遮断弁の耐震性についての計算書	P.1	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)設計基準対象施設としての構造強度評価および動的機能維持評価を示す。 (新)設計基準対象施設としての構造強度評価及び動的機能維持評価を示す。	2023/2/7	
399	NS2-添2-017-05	VI-2-別添2-5 大型タンク遮断弁の耐震性についての計算書	P.3,16	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)制御棒駆動系 (新)制御棒駆動水圧系	2023/2/7	
400	NS2-添2-017-05	VI-2-別添2-5 大型タンク遮断弁の耐震性についての計算書	P.8	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)本計算書に評価結果を記載しない管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)本計算書に評価結果を記載しない管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
401	NS2-添2-017-05	VI-2-別添2-5 大型タンク遮断弁の耐震性についての計算書	P.8	鳥瞰図記号凡例のレストレイント及びスナッパについて、斜め拘束の場合を追加し、記載を適正化しました。	2023/2/7	
402	NS2-添2-017-05	VI-2-別添2-5 大型タンク遮断弁の耐震性についての計算書	P.8	SsとSdの両方の相対変位を記載する図に変更し、説明を追記しました。 <追記> なお、Ss機能維持の範囲はSs地震動による変位量のみを記載する。	2023/2/7	
403	NS2-添2-017-05	VI-2-別添2-5 大型タンク遮断弁の耐震性についての計算書	P.10	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)CRD A,B-R/B入口遮断弁(AV212-5A,B) (新)CRD A,B-R/B入口遮断弁(AV212-5A,5B)	2023/2/7	
404	NS2-添2-017-05	VI-2-別添2-5 大型タンク遮断弁の耐震性についての計算書	P.10	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)弁体を含む弁本体、弁体を電動にて駆動する駆動部で構成される。 制御棒駆動系の管に設置される。弁本体及び弁が設置された管は支持構造物にて支持される。 弁設置位置 (新)弁体を含む弁本体、弁体を電動にて駆動する駆動部で構成する。 制御棒駆動水圧系配管に固定される。駆動部は壁面に支持構造物にて固定し、弁が取り付く配管は床面に支持構造物にて固定する。 弁設置位置図	2023/2/7	
405	NS2-添2-017-05	VI-2-別添2-5 大型タンク遮断弁の耐震性についての計算書	P.11	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)CWT A,B-R/B入口遮断弁(AV271-1A,B) (新)CWT A,B-R/B入口遮断弁(AV271-1A,1B)	2023/2/7	
406	NS2-添2-017-05	VI-2-別添2-5 大型タンク遮断弁の耐震性についての計算書	P.11	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)弁体を含む弁本体、弁体を電動にて駆動する駆動部で構成される。 復水輸送系の管に設置される。弁が設置された管は支持構造物にて支持される。 弁設置位置 (新)弁体を含む弁本体、弁体を電動にて駆動する駆動部で構成する。 復水輸送系配管に固定される。配管については、床面に支持構造物にて固定する。 弁設置位置図	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
407	NS2-添2-017-05	VI-2-別添2-5 大型タンク遮断弁の耐震性についての計算書	P.12	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)弁体を含む弁本体, 弁体を電動にて駆動する駆動部で構成される。 補給水系の管に設置される。弁が設置された管は支持構造物にて支持される。 弁設置位置 (新)弁体を含む弁本体, 弁体を電動にて駆動する駆動部で構成する。 補給水系配管に固定される。配管については, 床面に支持構造物にて固定する。 弁設置位置図	2023/2/7	
408	NS2-添2-017-05	VI-2-別添2-5 大型タンク遮断弁の耐震性についての計算書	P.13	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)FP A,B-RW/B入口供給遮断弁(AV273-1A,B) (新)FP A,B-RW/B入口供給遮断弁(AV273-1A,1B)	2023/2/7	
409	NS2-添2-017-05	VI-2-別添2-5 大型タンク遮断弁の耐震性についての計算書	P.13,14	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)弁体を含む弁本体, 弁体を電動にて駆動する駆動部で構成される。 消火系の管に設置される。弁が設置された管は支持構造物にて支持される。 弁設置位置 (新)弁体を含む弁本体, 弁体を電動にて駆動する駆動部で構成する。 消火系配管に固定される。配管については, 床面に支持構造物にて固定する。 弁設置位置図	2023/2/7	
410	NS2-添2-017-05	VI-2-別添2-5 大型タンク遮断弁の耐震性についての計算書	P.14	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)FP A,B-T/B入口供給遮断弁(AV273-2A,B) (新)FP A,B-T/B入口供給遮断弁(AV273-2A,2B)	2023/2/7	
411	NS2-添2-017-05	VI-2-別添2-5 大型タンク遮断弁の耐震性についての計算書	P.24	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答スペクトルを下表に示す。 なお, 設計用床応答スペクトルは, VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき策定したものを 用いる。また, 減衰定数はVI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。 (新)本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答スペクトル及び等価繰返し回数 を下表に示す。 なお, 設計用床応答スペクトルは, VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定したものを 用いる。減衰定数は, VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。等価繰返し回数は, VI -2-1-9「機能維持の基本方針」に基づき設定したものを 用いる。	2023/2/7	
412	NS2-添2-017-05	VI-2-別添2-5 大型タンク遮断弁の耐震性についての計算書	P.30	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)疲労累積係数 (新)疲労累積係数 <u>US_s</u>	2023/2/7	
413	NS2-添2-017-05	VI-2-別添2-5 大型タンク遮断弁の耐震性についての計算書	P.30	IVASを追加し, VASの記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)一次応力(0.9・Su) 一次二次応力(2・Sy) (新)一次応力 <u>S_{prn}</u> (0.9・Su) 一次二次応力 <u>S_n</u> (2・Sy)	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
414	NS2-添2-017-05	VI-2-別添2-5 大型タンク遮断弁の耐震性についての計算書	P.32,33	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 4: 水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
415	NS2-添2-017-05	VI-2-別添2-5 大型タンク遮断弁の耐震性についての計算書	P.32,33	動作機能確認済加速度及び構造強度評価結果について、「詳細評価」で実施することが分かるよう表を適正化しました。	2023/2/7	
416	NS2-添2-017-05	VI-2-別添2-5 大型タンク遮断弁の耐震性についての計算書	P.32,33	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧) * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「—」と記載する。 (新) * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 3: 詳細評価対象外の場合は「—」と記載する。	2023/2/7	
417	NS2-添2-017-05	VI-2-別添2-5 大型タンク遮断弁の耐震性についての計算書	P.32,33	α (Sd), β (Sd)を削除しました。	2023/2/7	
418	NS2-補-027-10-1改04	機電設備の耐震計算書の作成について	P.2	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管	2023/2/7	
419	NS2-補-027-10-1改04	機電設備の耐震計算書の作成について	P.4	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管 (新)工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち本系統の管であって計算書作成対象範囲外の管及び他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管	2023/2/7	
420	NS2-補-027-10-1改04	機電設備の耐震計算書の作成について	P.17	記載を適正化しました。 (旧)策定 (新)設定	2023/2/7	
421	NS2-補-027-10-1改04	機電設備の耐震計算書の作成について	P.26,33,34	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)重大事故等クラス2管 本表は重大事故等クラス2管であってクラス1管範囲に適用する。 (新)重大事故等クラス2管(原子炉冷却材圧力バウンダリ範囲)	2023/2/7	
422	NS2-補-027-10-1改04	機電設備の耐震計算書の作成について	P.28,37,38	表の適用範囲を明確にするための説明を追記しました。 <追記> 同一計算書にて原子炉冷却材圧力バウンダリ範囲の重大事故等クラス2管の結果を示す場合は、原子炉冷却材圧力バウンダリを除く範囲の結果である旨を記載する。	2023/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
423	NS2-補-027-10-1改04	機電設備の耐震計算書の作成について	P.30	機能維持評価用加速度に水平及び鉛直方向の合成の欄を追加しました。(下線部参照) (旧)下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 (新)下表に示すとおり水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。 * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 4: 水平及び鉛直方向の機能維持評価用加速度をベクトル和により合成した値であり、詳細評価を実施する場合に使用する。	2023/2/7	
424	NS2-補-027-10-1改04	機電設備の耐震計算書の作成について	P.30	動作機能確認済加速度及び構造強度評価結果について、「詳細評価」で実施することが分かるよう表を適正化しました。	2023/2/7	
425	NS2-補-027-10-1改04	機電設備の耐震計算書の作成について	P.30	合成の欄を追加したことに伴い、注記を分割しました。(下線部参照) (旧) * 2: 機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「—」と記載する。 (新) * 2: 水平又は鉛直方向の機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、水平及び鉛直方向を合成した機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度の最小値以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。 * 3: 詳細評価対象外の場合は「—」と記載する。	2023/2/7	